

日本育種学会第 148 回講演会 ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員

ランチタイムセミナー 実施報告書

日時：2025 年 9 月 11 日(木) 12:50 ～ 13:50

開催場所：札幌コンベンションセンター 中ホール

後援：男女共同参画学協会連絡会

講演タイトル：「“当たり前”を見直す旅へ：海外で“マイノリティ”を経験する意義」

話題提供者：東京大学 大学院農学生命科学研究科 師田郷太 氏

本大会のセミナーでは、東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授の師田氏をお迎えし、約 17 年にわたる米国での研究・教育経験を踏まえ、マイノリティとしての経験から得た気づきや視点の変化について講演いただきました。当日は 120 名以上を超える参加があり、会場は大変盛況となりました。



写真：師田氏および講演の様子

師田氏は、2008 年にウィスコンシン大学マディソン校に修士・博士課程で留学されて以降、ネブラスカ大学リンカーン校、バージニア工科大学で大学教員として活躍され、2024 年度まで米国の大学に所属されていました。渡米当初は学生であったためマイノリティについて考えを巡らせる余裕はほとんどなかったものの、大学教員として働く中で、マイノリティについて意識する機会が増えたとのことで、実体験に基づく貴重なお話を伺うことができました。

講演では、日本の研究者を取り巻く環境について、他国との比較を交えながらわかりやすく解説いただきました。特に、日本の研究業界は「人が入ってこず、また出ていかない」という閉鎖性があり、自分とは異なる背景や価値観を持つ人々と接する機会が乏しいままマジョリティとして過ごす研究者が多いという指摘は印象的でした。また、米国の大学教員や学会所属研究者の男女比率が概ね半々であるのに対し、日本の女性研究者が約 20%に留まること

にも触れ、日本独自の状況を改めて認識させられました。

講演後半では、米国内で転職された際にご夫婦で活用された「配偶者雇用制度」について詳細を共有いただきました。転職にあたり、夫婦でどのように話し合って意思決定をされたかという具体的な経験談は、今後海外でのキャリア形成を目指す若手研究者にとって非常に参考となる内容でした。また、配偶者をセットで採用することで、優秀な人材を確保しやすくなるという利点があり、多くの米国州立大学が制度として導入していることを伺い、日本でも同様の取り組みが広がることを期待したいと思いました。

講演全体を通して、「自分にとっての当たり前が他人にとっての当たり前である」という前提を疑うこと、そして人生のどこかでマイノリティとしての経験をもつことの意義を強調されました。マイノリティ経験は、他者への理解や配慮に繋がり、また自身の強みとして生かせるという力強いメッセージをいただきました。最後には、「日本ではマジョリティとなる男性がダイバーシティ&インクルージョン(D&I)を自分事として捉え、継続的に考えを発信していくことが理想的である」との言葉で締めくくられました。

ご講演後の質疑応答では、配偶者雇用制度を含む支援のあり方、学生にとってのロールモデルの重要性、大学教員や学会所属研究者の男女比を将来的に均衡化するための具体的な取り組み、さらには海外経験がなくてもマイノリティとしての視点を体験する方法についてなど、多角的な観点から活発な議論が交わされました。

次ページ以降に紹介するように、参加者の皆様からも多くの貴重なご意見や感想を頂戴しました。いただいたご意見を踏まえ、D&I 推進委員会は今後もより良い育種学会の実現に向けて活動してまいります。ご講演くださった師田氏、ならびにご参加いただいた学会員の皆さまに心より感謝申し上げます。



写真： 質疑応答の様子

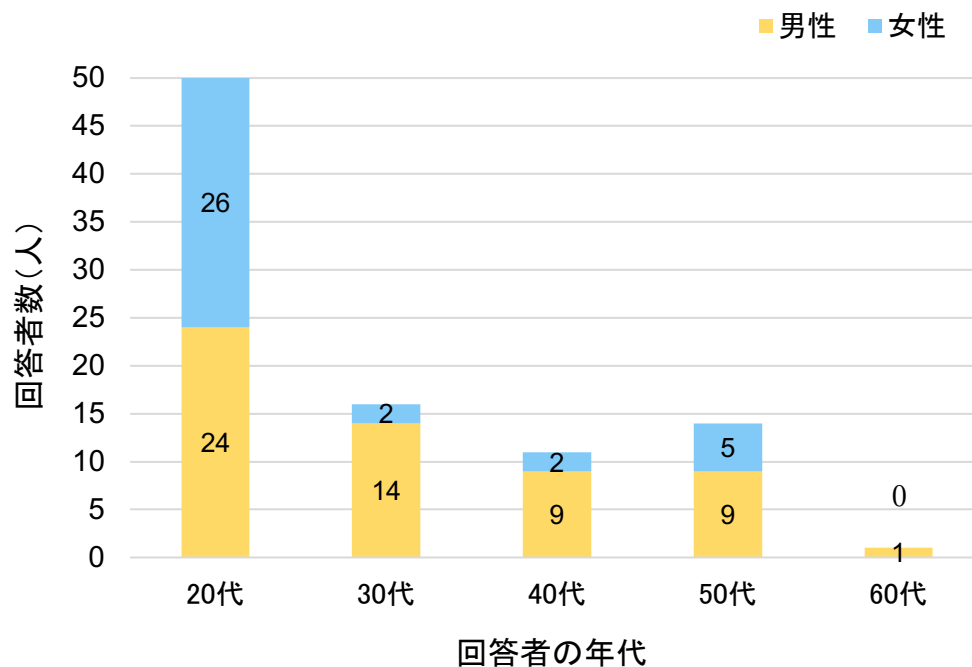
日本育種学会第 148 回講演会 ダイバーシティ&インクルージョン(D&I) 推進委員会企画
ランチタイムセミナー アンケート結果
(アンケート回答者 92 名)

1. あなたの性別をお教えてください。ご回答は任意です。

男性, 女性, 回答しない

2. あなたの年齢をお教えてください。ご回答は任意です。

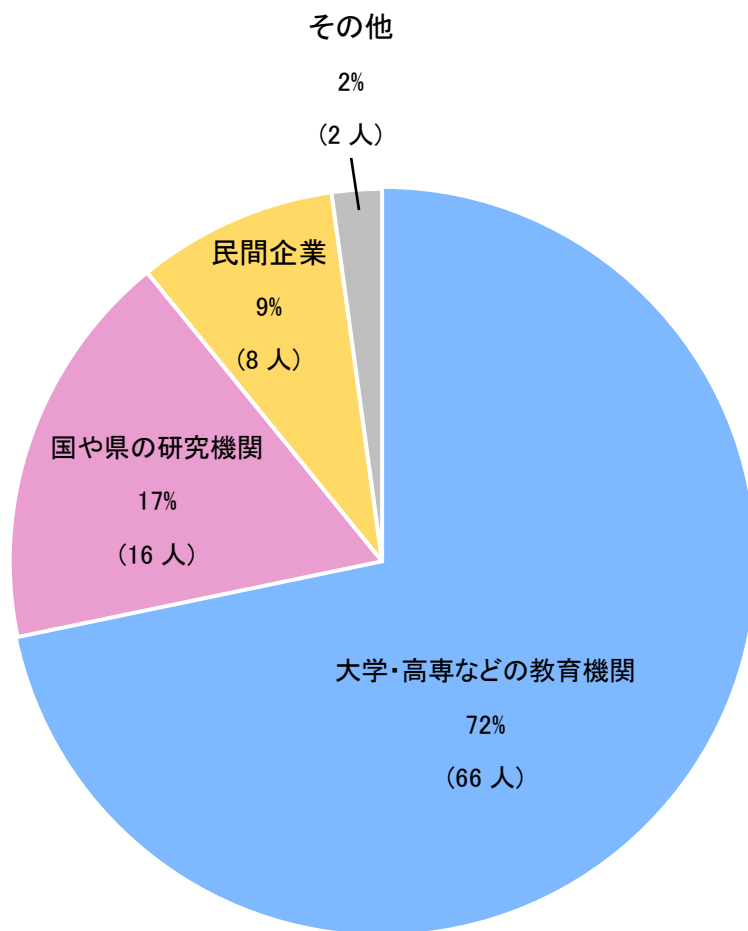
20 代, 30 代, 40 代, 50 代, 60 代, 70 代以上, 回答しない, その他



〈アンケート回答者の年代分布および各年代における性別毎の回答者数〉

3. あなたの所属先をお教えてください。

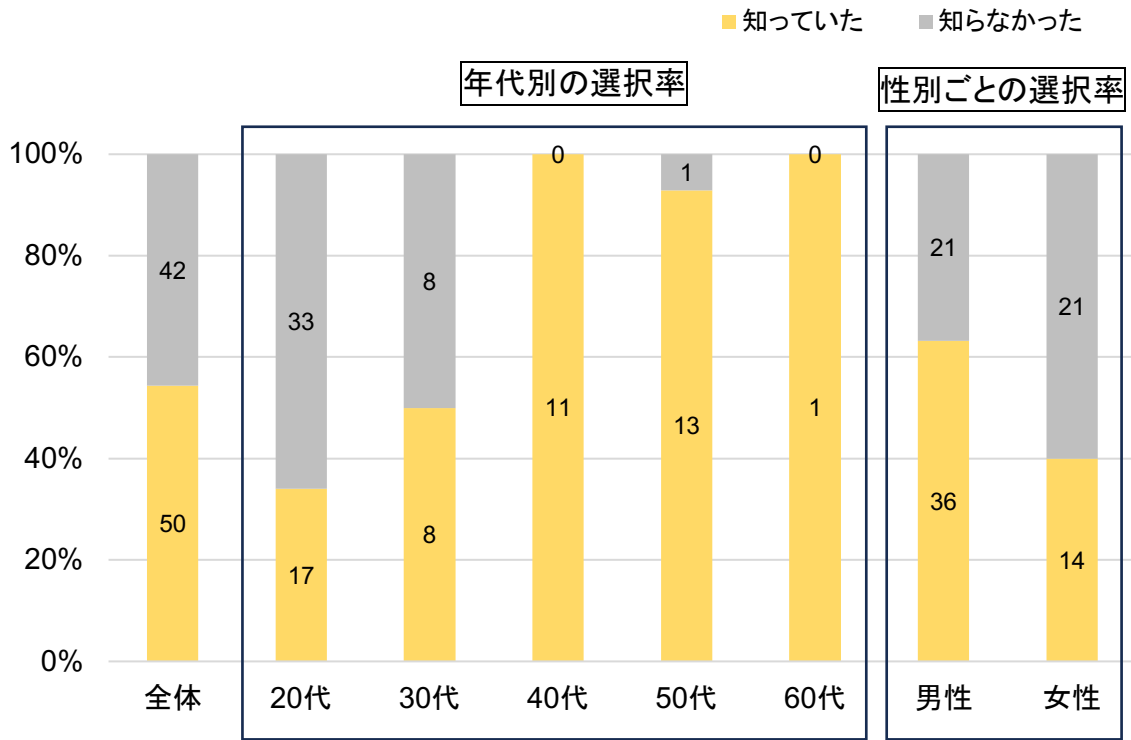
大学・高専などの教育機関, 国や県の研究機関, 民間企業, その他



〈アンケート回答者の所属先分布〉

4. 日本育種学会には、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員会(旧・男女共同参画推進委員会)があり、男女共同参画をはじめとする多様性と包摂の実現に向けた活動を行っています。これまでの男女共同参画推進委員会や現在のD&I推進委員会の活動について、ご存じでしたか？

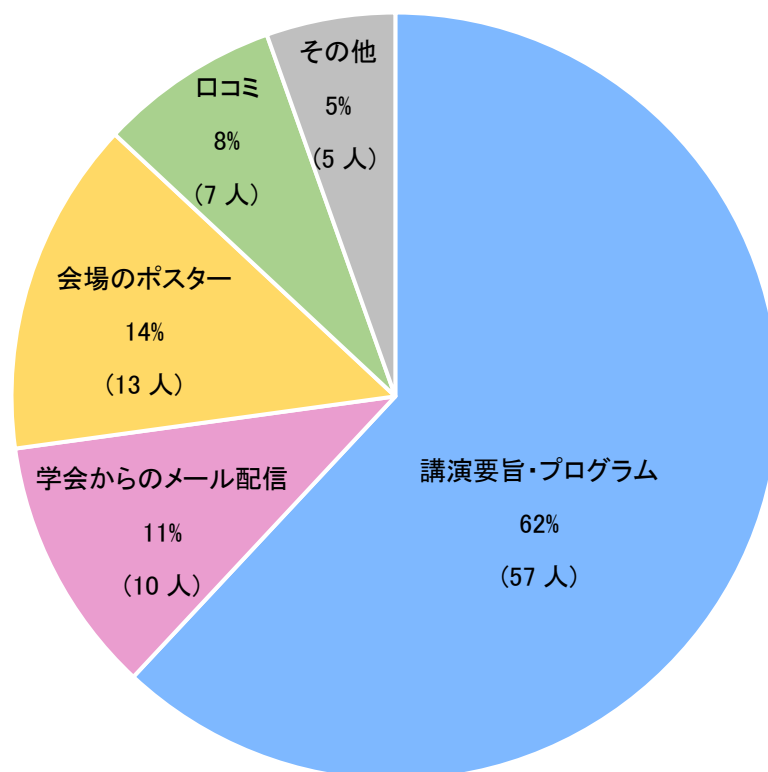
知っていた, 知らなかった, その他



〈アンケート回答者の各項目の選択率(数字は人数)〉

5. 今回のランチタイムセミナーについて何を見て知りましたか？

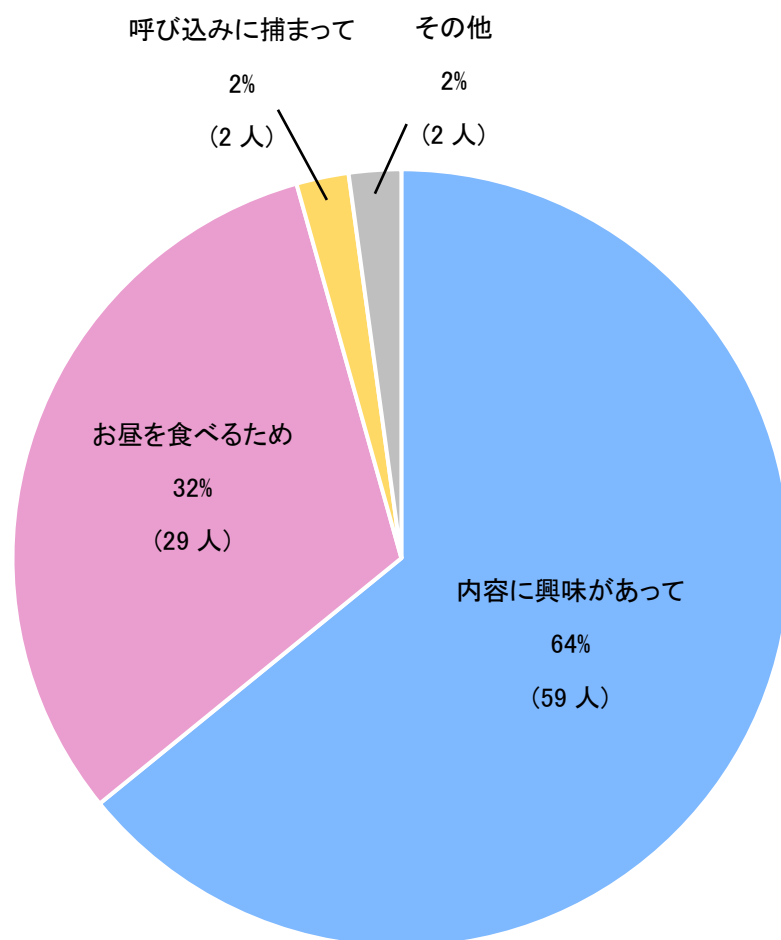
講演要旨・プログラム, 学会からのメール配信, 会場のポスター, 口コミ, その他



〈アンケート回答者の分布〉

6. 今回のランチタイムセミナーに参加された理由を教えてください。

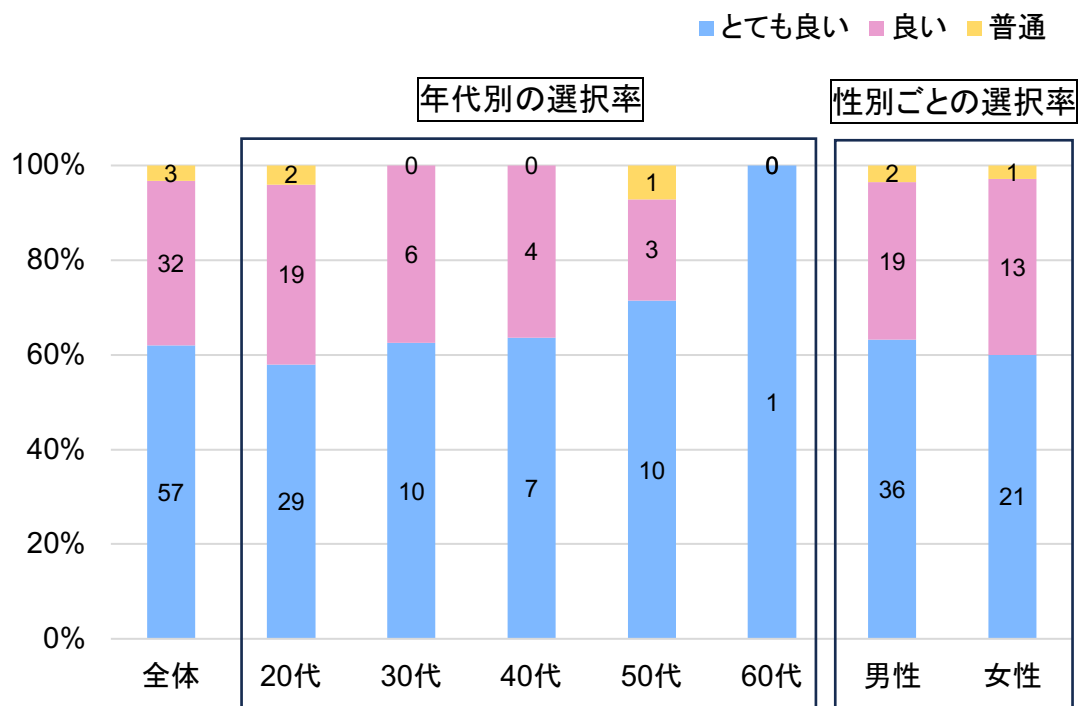
内容に興味があって, お昼を食べるため, 呼び込みに捕まって, その他



〈アンケート回答者の分布〉

7. 今回のランチタイムセミナーの内容はいかがでしたか？

とても良い, 良い, 普通, あまり良くない, 良くない, わからない



〈アンケート回答者の各項目の選択率(数字は人数)〉

8. 今回のランチタイムセミナーのご感想をお書きください。

回答者性別・年代		感想
男性	20 代	参考になった
男性	30 代	新しい気づきがあり良かったです。
女性	20 代	賑やか
男性	20 代	マイノリティについて、これまで考えていなかったのも、その良いきっかけとなった
女性	20 代	配偶者雇用制度のことを初めて知った。日本でもこのような制度があればいいと思う。
女性	20 代	アメリカで教員をご経験された方のお話をお伺いできる機会をいただけて大変有意義な時間でした。
男性	20 代	お昼ご飯が出ることで話を聞くきっかけになったのでよかった。
男性	20 代	いままで、マイノリティの立場についてあまり考えたことがなかったが、今回の講演を聞いて意識するべきだと感じた。
女性	20 代	とても興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。
女性	20 代	マイノリティの経験を大切にしたい。
男性	20 代	日本もいずれアメリカのようになれるのかと思った。
男性	50 代	理解しやすい内容でした
男性	30 代	講演者の実体験に則した話題が聞けてよかったです。
男性	20 代	マジョリティ、マイノリティについて考える良い機会になりました。マイノリティになった際に自ら声を上げることは難しいことだと思うので、マジョリティ側が気づいてあげることが大事だなと思いました。
男性	40 代	自分が男性なので、マイノリティに気がつくことの重要性に気がつくことができました
女性	30 代	米国では日本人男性研究者が、マイノリティではないということに驚いた。
男性	30 代	普段と異なる環境に身を置くことの重要性について再認識することができ、よかった。
男性	20 代	今の世界情勢と合わせてみても興味深い内容でした。
男性	50 代	実体験のお話が面白かったです。配偶者雇用制度について知り驚きました。
男性	20 代	アメリカで具体的にどのような制度で D&I を推進しているのかという事例や、ロールモデルとなる師田先生の具体的な話を聞けて面白かったです。
女性	20 代	共感しました
女性	20 代	私は研究内容的にマイノリティで、不遇な思いをすることがありますが、マイノリティの人も自分の中の当たり前に気が付かないこともあると思うので、当たり前を疑うことは大切だと感じました。
男性	20 代	マジョリティとマイノリティについて普段考える機会がなかったので、このセミナーを機に考えてみようと思いました。
男性	20 代	なかなか聞くことのできない貴重なお話を聞けて面白かった。
男性	20 代	あまりマイノリティを真剣に考えたことがなかったが、自らその立場の経験をする重要性を知ることができ、有意義な時間になった。
男性	20 代	師田さんの人生が面白いと感じた
女性	20 代	自分自身海外生活の経験があり、マイノリティとして生きたことがあったので、自分のことと重ね合わせながら話を聞くことができて共感できる部分がありました。
女性	20 代	これからのキャリアについて考えるきっかけを得られてよかった。
女性	20 代	若いうちにマイノリティの経験しておくことの重要性を強調されているのが印象に残りました。アメリカの大学でそこまで強い差別や文化の受け入れられなさを経験されなかったというのが意外でした。今まで留学というとなような心配ばかりしてしまうので意外と飛び込んでみたらいのかもしれないとおもいました。
女性	20 代	共感するところや、リーダーのうな仕事をするにあたり、必要なことを学べたと思います。リーダーになっている人はいつも心に余裕があるように思います。おそらく、マイノリティのことも含め、経験が豊富なんだと感じました。
女性	20 代	女性も気兼ねなくアカデミアの世界に入れるようになると良いなと思いました。
男性	20 代	日頃から意識していきたいと思う

男性	40 代	海外でのマイナーな経験をされた先生の貴重なご意見を伺えて、大変参考になりました！
男性	40 代	今回のテーマはこれまでで一番心に響く内容でした。若い研究者だけでなく、指導者も意識する必要がある内容だと再認識できました。
女性	40 代	男性の方から見たマイノリティの目線でのお話が良かったです。アメリカのシステムや、アメリカでのマイノリティという普段聞けない話が聞けておもしろかったです。
女性	50 代	マイノリティの存在に気がつくメリットに言及していただき、とても勉強になりました
男性	50 代	日本でも学内には隠れマイノリティーはいます。
男性	40 代	マイノリティとしての経験をもつ機会を持ちたいと思いました
男性	30 代	大変参考になるお話ありがとうございました。 マイノリティの経験があるじぶんにとっても、経験してよかったと思いました。 こういった知見や経験を講演されることで、キャリアパスの参考にしたり研究人生の岐路にある人にとっても参考になると思うので、継続して講演していただけると助かる人もいると思いました。
男性	40 代	海外経験、マイノリティについての視点など、大変感銘を受けました。
女性	20 代	とても考えさせられるセミナーでした。長い間マジョリティとしていたとマイノリティの方の気持ちを忘れてしまうことがありましたが、再び考えさせられる気持ちになりました。
女性	50 代	とても興味深い内容でした。ご準備ありがとうございました。ちょっと一つ「ロールモデル」というのは、n=1 なので使い方に注意が必要かなと思いましたよ。
男性	20 代	ロールモデルを意識するという考えは自分の中でも意識したいことなので、お話を聞くことができて良かったです。
男性	40 代	アメリカでの生活についてとても興味深かったです！
女性	50 代	自分自身と周りを改めて振り返る良い機会となりました
女性	20 代	最後のご質問で、インクルージョンの意識を持つためにはどうすればよいか、というのがありました。個人的にはマイノリティ当事者になるか、当事者の体験談を聞くしかないと思います。お話にもありましたが、日本でマイノリティ当事者になるのは難しいと思いますので、今後ともこのようなセミナーを開催して頂ければと思います。
男性	50 代	D&I 推進委員会に変わり、取り上げてくださる話題に広がりが出たと思います。1 年以内の留学や海外滞在経験でも、マイノリティであることは否応なく意識させられました。今回の講師の先生のように長く海外に滞在されると、それよりもずっとマイノリティに関する感覚が研ぎ澄まされて、考えも深くなるのだと思いました。貴重なお話をうかがえる機会をありがとうございました。
男性	20 代	改めて自分の中にあるマイノリティの意識や身の回りの人でマイノリティの人がいないか省みる機会になりました。
女性	20 代	大変強く共感しました。 マジョリティの立場でありながらマイノリティの立場を想像することも置かれてる立場がマジョリティでもマイノリティになる経験に類似したものになるのではないかと思います。 ただ、可能であれば実際マイノリティになることはおっしゃる通りだと思います。
男性	30 代	特に国内で暮らしていると、マジョリティであることが「正解」かのように感じられる場面も少なくないため、マイノリティとしての経験は積極的に得ようとしないと得ることは難しいのではないかと感じた
男性	50 代	人生のどこかでマイノリティの体験をすべきというのは、全く賛同します。大学などで D&I の推進を強かに進めるためには、トップのリーダーシップが重要だと思いますので、過去にマイノリティ経験があり、D&I に理解のあるトップ(リーダー)を選ぶことの必要性を感じました。
男性	30 代	自分自身はマジョリティで生きてきたことを改めて認識しました。自分の感覚としては国籍や人種、性別などへのハードルを感じることはなかったのですが、逆に意識をして考えていくことでより多くの人が活躍できる環境を作っていけるのかなと感じました。
男性	60 代	わかりやすい講演でした。毎月開かれるある国際会議で私はいつも唯一の非欧米人であり話が噛み合いません。マイノリティである事を強みに変えるとの示唆に勇気づけられました。

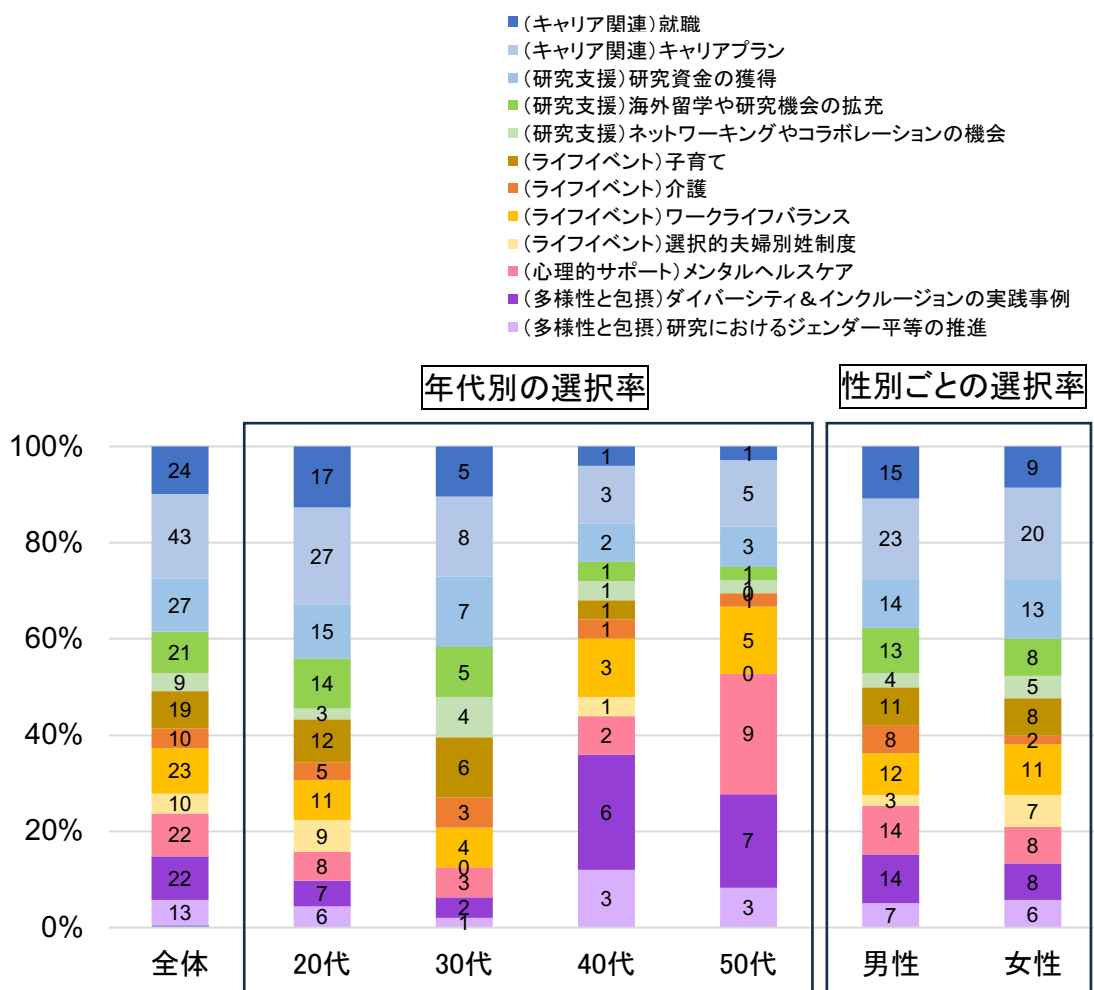
9. これまでにご自身がマイノリティな立場、もしくは周りにマイノリティな立場の方がいて、問題を意識した場面や経験がありましたら、差し支えない範囲でお教えてください。

回答者性別・年代		
女性	20 代	スロベニアでの留学生活
女性	40 代	職場はほぼ男性なので、常に感じています
女性	20 代	知人が障がい者への教育を行っていますが、通常級との扱いの違いがあり困惑したり憤ることがあるそうです。
女性	20 代	高専は大学生からの認知が低いこと
男性	50 代	博士課程の学生時に 1 年間カナダに留学
男性	30 代	コロナ禍に海外でボスドクしていて、東アジア系として居づらさを感じました
女性	20 代	マイノリティはいろいろ難しい
女性	20 代	自分自身が幼少期ではあるが海外でアジア人女性としてマイノリティになった時に、うまく自分の意見が言えず自分が全て悪いというようにされてしまったことがあった(当時はまだあまり英語が話せなかった)
男性	40 代	大学院生に留学生が多いので、なるべく気をつるようにしています。
男性	50 代	海外の研究機関に留学した際、マイノリティとして、一方的な役割を求められた。
女性	20 代	小学生の頃海外に住んでいました。日本人は学校に 1 人で、周りはかなりフレンドリーな人ばかりだったので、性格の違いというのはかなり感じました。
女性	20 代	高校大学と年齢が上がるにつれて、大学院進学を考える人が多くなっているが、親族で大学院に行ったことがある人がいないことから興味がありながら学部で卒業せざるを得ない状況というところから周りと思うことがあります。
男性	20 代	マジョリティ側の言語の会話で、マイノリティが輪に入れないこと(留学先の自分と、日本に来た留学生)
男性	40 代	海外留学を経験したことがあるので、よくわかります。 企業研究者として参加しているので、そこもマイノリティかと思います。また、ドクターの資格もないので、そこも該当するかと思います。
女性	40 代	留学生の学生さんが日本の文化の面で馴染めていなかったりする面が時々あるなと思います。
女性	50 代	重要事項を決める会議に、女性は自分 1 人 男性は問題に気づきにくい場面があった
男性	40 代	育種学会における非ゲノム分野はマイノリティと感じます。
女性	50 代	選んだ学校も職場も全て少数派です。海外にも行きましたが、常にマイノリティです。
男性	20 代	アメリカで 1 日だけ日本語話者が自分だけになったタイミングがあった。その際、周りに助けてもらう中で英語を話さざるを得なくなったことがあった。環境が自分を作るという今回のテーマの一つを感じる体験だった。
男性	40 代	海外留学していました
女性	50 代	地方のとても小さな町で生まれ、中学に上がった時からずっとマイノリティとして生きてきた事を、今回の講演に参加して改めて実感しました。若い時はとにかく女性だからできない、自信がない、と最初から挑戦せずにいた事もあり、今となってはもったいなかったなと思います。でも、今の自分でも自身の経験をもっと周りに活かす事ができるんじゃないかと気付かせていただきました。ありがとうございます。
男性	60 代	国際的な職場なので両面を意識しています。

※個人情報保護の観点から、一部を非公開としています。

10. 今後のランチタイムセミナーで取り上げてほしいテーマがありましたら、お聞かせください。複数選択可能です。

- (キャリア関連) 就職・キャリアプラン
- (研究支援) 研究資金の獲得・海外留学や研究機会の拡充・ネットワーキングやコラボレーションの機会
- (ライフイベント) 子育て・介護・ワークライフバランス・選択的夫婦別姓制度
- (心理的サポート) メンタルヘルスケア
- (多様性と包摂) ダイバーシティ&インクルージョンの実践事例・研究におけるジェンダー平等の推進
- その他



〈アンケート回答者の各項目の選択率(数字は人数)〉

11. 今後のランチタイムセミナーで、講演をお願いしたい方やテーマについて具体的なご希望がありましたら、ぜひ教えてください。

回答者性別・年代		
女性	50代	理研の平井優美先生
男性	20代	企業と大学間の人材の行き来について

12. ランチタイムセミナー以外で、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員会に対するご要望がありましたら、お聞かせください。

回答者性別・年代		
女性	50代	ご準備感謝
男性	60代	今日の師田先生のお話を鳥取大学でも開いてほしい。

13. 昨年度の9月より、「男女共同参画推進委員会」は「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員会」に名称を変更しました。この変更について、ご意見がございましたらお聞かせください。

回答者性別・年代		
男性	40代	名称変更は良かったと思います
女性	50代	良いと思います
男性	50代	非常に良いと思います。
女性	20代	よりカバーする範囲を拡大していて大変良いことがと思います。外国から来られた方に対する活動も含まれていると思うので今後期待しております。
男性	30代	より広範が対象となり、良いと思います
男性	60代	良いと思う。

14. 日本育種学会の講演会について、平日開催と土日開催のどちらが参加しやすいか、ご意見をお聞かせください。また、その他ご要望などがございましたら、併せてお知らせください。

回答者性別・年代		
男性	30 代	絶対、平日
男性	30 代	平日開催
男性	40 代	土日
女性	20 代	平日開催
男性	30 代	平日
女性	30 代	平日
男性	20 代	平日
男性	30 代	平日開催
女性	50 代	育種学会で、ブリーダーがマイノリティになっているのは問題ではないか。
男性	20 代	2 日目の口頭発表を午前に回したおかげで、最後の講演に人が少なくなるのを避けられたのは、とても良かったと思います。
男性	20 代	平日
男性	40 代	平日が良いです
男性	50 代	どちらでも大丈夫
女性	20 代	平日
男性	20 代	平日
男性	40 代	平日開催
女性	50 代	平日開催 土日は学校行事と重なる場合があるま
男性	40 代	大学教員は授業がなければどちらでも大丈夫ですが、家族との時間を考えると平日でしょうか？ホテル代も安いですね。
男性	40 代	平日開催を希望します。代休は結局取れないので。
女性	20 代	どちらでも大丈夫です。
男性	50 代	どちらでも参加可能です。
女性	20 代	平日
男性	30 代	平日開催が良いです